

氏名 竹野 光稀

今日二回目となる三木谷杯に参加させてもらいました。自外はチームの中でJTAランキングを担っており、この大会でシングルスとダブルス1番手を出させてもらいました。チームとしての結果は2勝2敗で6位でした。

今回の試合で学んだことは主に2つです。まず一つ目は声や体を動かして気持ちを作ることです。特に自外の場合ラリーが気持ちに左右されがちなので常にモチベーションを上げる必要があると思いました。また相手が強くなるとつれて辛抱するのはもちろんですが、やはりしっかりと打つていかないといけないので、声を出して気合を入れる必要があるとおもいました。

二つ目は自外には何かの決定打がないと全国では通用しないということです。今回の最後の試合で強豪校と対戦したのですが自外はほとんど守りしか出来ませんでした。やはり相手が強くなるとミスが減り攻めも強くなるとまます。やはり自外にも何か攻めの武器が

あり相手をも崩せないと勝てないと思いました。

20×20

この経験をバネにして来年の国体、インターハイ、全日本で全国に向けて全国で勝ちたいと思います。

氏名 澤田文弥

今回僕は、三木谷杯へ参加させていただきま
した。普段の練習では決して味わうことの
できない緊張感と直接体験することから、と
ても良い経験になりました。今大会には、全
国でも活躍する選手もいて、周りでオニコー
ト上、オニコート外の振る舞いを見ることか
らでも、とても参考になりました。僕は今回、
ニンブルヌ・ダブルヌ両方に出させてもら
いました。まず感じたのは、スタートから自分
のテニスが出来ない感じが勝つことは難しいこ
とと身もこもって感じました。また、自分に
って足りないものは技術などではなく、試合
のやり方や、オニコート上でのパフォーマンス
にあると気が付きました。そして特に分
かっていたのは、1ポイントの重要性です。今回
自分が気付いたこの点を、学校やクラブで練
習をして、テニスプレイヤーとしてのレベル
を一気に上げていきたいと思います。今回の
経験を勝つに結びつけられるよう、日々努力を
していきたいと思います。

氏名 今井 翼

まず初めに、ジュニア育成と言う主旨とは異なる僕を今回の遠征に呼んでいただき、ありがとうございます。とうございました。今日は、昨年に続き2度目の参加と言う事もあり、少しリフレッシュした気持ちで臨むことが出来ました。この遠征では技術面も、その他の面でもっとも大きく成長出来たと思っております。人には、認知能力（テストやIQなどでは測りきれない能力）と、非認知能力（空気をよむ力や、バリエーション、特性など）の2つがあり、テニスでは後者である非認知能力が養われると聞いた事があります。今回の遠征では、誰と知り合いのいなり関与の予定との交流により、この非認知能力がもっとも養われたと感じました。みんなの前で一発ギャグを披露したり出来る機会はありません。そして、果外の人と話す事によって、テニスに関する新たな知識を手に入れ、もっとも貴重な経験になりました。これから同志社大学に進学しますが、この遠征で得た自信を全身こめて頑張っていく予定です。

氏名 丸石 拓海

今回、三不谷杯で昨年と違う収穫は、大学生の戦い方を学んだことです。大学生の多くの選手は、シングルスでもダブルスでもとにかくリターンを入れてきます。また、ラリー中、7割以上が深いコースで7割くらいの力でラリーをしていました。そうした中で、今の自分に足りないところが見つけられました。その中でも一番大切でチーム広島のみんなにも活かせることがあります。それは、遠征中磯村ユウチのアドバイスで、体勢のいい時に入れるのはあたり前であって、いかに体勢の悪い時に入れるのが大事である。というアドバイスです。体勢の悪い時に、手首やラケットコントロールで入れる練習をこれから大学生になるまでにやっていこうと思います。この3日間ありがとうございました。